<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>保育内容指導法
（言葉）</td><td>教員名</td><td>尾之上　高哉</td><td rowspan="4">免許・資格との関係</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>幼稚園教諭</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>演習</td><td>担当形態</td><td>単独</td><td>こども音楽療育士</td><td></td></tr>
<tr><td>科目番号</td><td>F0I206</td><td rowspan="2">配当年次</td><td rowspan="2">２年後期</td><td rowspan="2">卒業要件</td><td>小幼コース</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>２単位</td><td>幼保コース</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6">領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める科目区分又は事項等</td><td colspan="6">保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td>一般目標</td><td colspan="6">保育における領域「言葉」の意義、子どもの言葉の発達や子どもの「言葉を育てる」指導について理解する。また、現代社会における言葉の重要性を理解し、保育現場での指導・援助について、幅広く学び､考える。

(1)領域「言葉」のねらい及び内容
幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
(2)領域「言葉」の指導方法と保育の構想
幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">(1)領域「言葉」のねらい及び内容
1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
2)領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
4)領域「言葉」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
(2)領域「言葉」の指導方法と保育の構想
1)幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
2)領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
3)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
5)領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
保育における領域「言葉」の目的と内容について理解するとともに、子どもの言葉の発達や子どもの「言葉を育てる」指導について理解することを目的とする。本授業では、言葉にかかわる現代社会の課題と子どもにとっての言葉について、言葉との出会い方、言葉が開く新しい世界などについて学習する。さらに、言葉の発達の土台、プロセスや言葉を育てる環境について理解し、子どもの言葉を育てる指導・援助の在り方について学ぶ。
アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。</td></tr>
<tr><td>ディプロマ・ポ</td><td colspan="6">本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「６.教科・教職に関する基礎的・応用的知識</td></tr>
</table>

リシーとの関係	を身につけている。」を育成する科目として配置している。
授　業　計　画	第１回：オリエンテーション 　授業概要（授業のテーマ、授業計画、授業形態、評価の方法）について説明する。言葉を意識することを自覚し、指導・援助の原則と技術について理解する。（目標(1)-1)） 第２回：領域「言葉」について 　乳幼児期にはぐくむ言葉の基礎について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の目標から理解する。また、子どもの言葉の捉え方、言葉の感覚を育てることについて理解する。（目標(1)-1),3),(2)-5)） 第３回：言葉にかかわる現代社会の課題１ 　情報化社会における言葉の問題（情報化社会の状況、一方的な情報の伝達、人の気持ちに鈍感な言葉)、都市化と言葉の問題（都市化の状況、人間関係の希薄化、地域文化の衰退）について理解する。また、ICTを含めた情報機器の現状や幼児期の教育への活用を概観しながら、適切に情報機器を活用するために必要となるメディアリテラシー、ICTリテラシー について理解を深める。（目標(1)-2),4)） 第４回：言葉にかかわる現代社会の課題２ 　現代の人間関係と言葉の問題（核家族における問題、少子化における問題、地域の人々との交流の少なさ)、国際化社会における言葉の問題（国際化の状況、異なる文化の相互理解）について理解する。（目標(1)-2),4)） 第５回：子どもにとっての言葉１ 　子どもの言葉との出会い方（出生から喃語までの時期、物と言葉の一致)、言葉のはたらき（伝達・思考の手段、行動調節の手段、世界を広げること）について理解する。（目標(2)-1)） 第６回：子どもにとっての言葉２ 　言葉が開く新しい世界について、人とのかかわりの世界、ものや自然、・生き物とのかかわりの世界を理解する。また、日常生活での言葉の体験や他者への働きかけの言葉について理解する。（目標(2)-1)） 第７回：言葉の発達１ 　言葉の能力を得る以前の言葉の発達の土台について、乳幼児初期の「ひと」に対する特別な感受性、発話への準備（発生編・行動編）を理解する。（目標(2)-1)） 第８回：言葉の発達２ 　言葉の発達のプロセスについて、言葉を使い始めるとき、言葉が増える時期、通じる世界の拡大、考えるための言葉を理解する。（目標(2)-1)） 第９回：言葉の発達３ 　文字への興味とその広がりについて、「文字」を使うこと、「書き言葉」を使うこと、早期教育の問題点、言葉が目指すことを理解する。（目標(1)-4),(2)-1)） 第１０回：言葉を育てる人的環境 　保護者とのかかわり（母・養育者と子どもをつなぐ言葉、豊かな会話)、友だちとのかかわり（自信が言葉を獲得、トラブルの中で育つ言葉)、保育者とのかかわり（繰り返す､合い言葉、まねをする)、幼児の言葉を育てる保育者の役割について理解する。（目標(1)-2),(2)-3)） 第１１回：言葉を育てる文化的環境１ 　遊びと子どもの文化について、「文化」とは何か、「子どもの文化」とは何かについて理解する。また、文化にふれることの意味について、生活の中の文化、文化のもつ人間的教育的意義、子どもの成長と文化を理解する。（目標(2)-2),3)） 第１２回：言葉を育てる文化的環境２ 　保育の中の文化財（児童文化財とは何か、保育の中の文化財の特徴と活かし方)、文化財を介しての子どもたちのかかわり、地域の中の文化とその重要性について理解する。また、文化財の活用という観点から、指導案作成の方法とそのポイントを理解する。（目標(2)-2),3)） 第１３回：幼稚園・保育所での言葉の生活１ 　子どもが自ら展開する言葉の生活、ひとりで楽しむ言葉の世界、（言葉を発する心地よさ、見

	立てて遊ぶ)、友だちとコミュニケーションする（友だちの存在を意識し合う、人とのやりとりを楽しむ、言葉で応答する楽しさ）について理解する。また、子ども達の言葉を豊かにするという観点から、指導案作成の方法とそのポイントを理解する。(目標(2)-4)） 第１４回：幼稚園・保育所での言葉の生活２ 　互いにイメージをふくらませ豊かにすること、協同で遊びを展開させること（言葉で遊ぶ、相手の気持ちになる､話し合いで解決する）について理解する。その上で、指導案を作成し、模擬保育を相互に行う。(目標(2)-4)） 第１５回：子どもの言葉を育てる指導 　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかを踏まえて､各自が興味のある分野で指導案を作成し､模擬保育を相互に行う｡互いの模擬保育にフィードバックを返す活動を通して、作成した指導案を再検討し、加筆修正を行う。(目標(1)-3),(2)-5)） 期末試験
学生に対する評価	期末試験50%、授業で提示する課題やレポート50%で総合して評価する。
時間外の学習について	（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。） 事前学習：次回のテーマについて自分なりに考えてくること。 事後学習：授業の内容を理解できるようにノートを整理すること。 また、授業外での製作活動の必要があるため、計画をたて取り組むこと。
テキスト	自作の教材を授業において適宜配布する。
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領〈最新版〉』 『保育所保育指針〈最新版〉』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈最新版〉』
担当者からのメッセージ	学生自らの言葉での表現を高めることが出来るよう、普段から自分自身の言葉を意識してください。
オフィスアワー	授業の前後の時間